

	目指す児童の姿	学校の自己評価コメント	自己評価	学校関係者評価コメント	関係者評価
体力の向上と安全教育の推進	自分の体力に関心を持ち目標を立てて体力を向上しようとする子ども	体力テスト判定結果 (25名中) A:9名 B:8名 C:5名 D:3名 E:0名 A判定は前年度の13名から9名へと減少しましたが、A・B両判定合わせると全校児童の65%となり、概ね良好な結果を残していると言えます。ただD判定も3名おり、体力の二極化傾向は本校にも窺えます。水泳指導や持久走、なわとび練習の充実の継続をしつつ、マット、鉄棒等の器械運動にも取組の工夫を行いながら課題である柔軟性、走力の向上を目指していきたいと考えます。	3.1	体力テストの結果については、前年度と同様に上学年と下学年が共に外遊びをする小規模校ならではの環境や学校の取組により、良い結果が出ていると思われる。 A・B判定が全校の60%を占めているが、D判定の児童をC判定に近づけるように指導をお願いしたい。	3.3
	自己管理能力や健康的な生活習慣を身に付けた子ども	午後10時前就寝～87% 毎日の朝食摂取～98% 上記2項目については、到達目標を100%と設定していました。毎月のチェック週間での結果をもとに、学級担任の個別指導や養護教諭による睡眠、朝食の大切さについての全体指導を行ってきました。ただ、諸事情により、整った生活リズムを継続できない児童も見られました。	2.8	前年度からの指導により、大きな成果が見られる。ただし100%に到達するためには、家庭での努力が必要であると考える。	3.3
		全員出席日～70% (124日/177日) 上記項目については、到達目標を80%と設定していました。傾向として胃腸炎、インフルエンザ等の感染症での欠席、出席停止が10月、1・2月に多く見られました。大流行には至りませんでした。対応・対策を今後も万全にしていきたいと考えます。年間を通して無欠席の児童も8名いました。	2.8	全員出席については、インフルエンザ等の感染症の場合は防ぐのが難しいので、やむを得ないと考えられる。学校や家庭での二次感染に留意するなどの対応・対策をお願いしたい。また、発熱している状態で児童が無理に登校するような事態は避けるように、学校でも指導を考えてほしい。	3.0
	むしば治療率～75% 上記項目については、到達目標を70%と設定していました。健康診断結果をもとに長期休業前に繰り返し治療勧告を行ったことで治療率が向上しました。また、個別の声かけや保健だよりなどで保護者への啓発も積極的に行いました。	4.0	学校での指導の成果がうかがえる。むし歯は家庭における生活習慣の問題でもあるので、予防、治療に対する保護者への一層の啓発をお願いしたい。	3.5	

	目指す児童の姿	学校の自己評価コメント	自己評価	学校関係者評価コメント	関係者評価
基本的な生活習慣の定着と豊かな心の育成	正しい言葉遣いや元気な声で進んでいきなり正しい生活が送れる子ども	元気のよいあいさつができる 昨年度からの課題として「進んで、どこでも」を目標として、様々な場面での自己表現に取り組んできました。その結果、あいさつについては児童・保護者の自己評価の集計結果でもポイントが高くなり、職員も児童が地域でも積極的にあいさつができるようになってきていると感じています。	3.1	児童は自分が知っている人に対しては元気のよいあいさつができているが、地域の人からは「あいさつしてくれる子どもは少ない」と聞いており、実際にそのように感じる。地域の人へのあいさつの励行について、取り組んでほしい。	2.8
		学校のきまりを意識して守る 全体的に、児童は学校のきまりをきちんと守って、安全な生活を送ることができています。ただ、年度当初に普段の通学路ではない道を通っての登下校が見られたことや暑い時期に子どもだけで海の近くで遊んでいたことがあり、安全指導を行ったことがありました。	3.0	学校のきまりはきちんと守れていることが、学校生活に関するアンケート結果からもうかがえる。 今後も指導をお願いしたい。	3.5
		事故ゼロ非行ゼロ不登校ゼロ 本年度も事故、大きな問題行動や不登校傾向の児童は見られません。家庭の協力、地域の方、関係機関の方々の見守りがあってこそであると考えます。1学期に通学路が大型トラックの運行経路になった時期がありましたが、すぐに対応していただきました。学校では水曜日の集団下校にはその時々状況に応じて随時安全指導を行うとともに、教育相談を毎月実施し、一人一人と向き合う時間を大切にしてきました。	3.7	事故等はないが、事故につながる可能性のある行動は、下校後にあると考える。 また、自転車に乗る際の交通ルールや乗り方にも問題が見受けられ、指導をしたこともある。 そのことについて保護者への周知を図るとともに、福島中への自転車通学を見据えて、高学年に対する自転車の乗り方の指導を工夫してほしい。	3.7
	整理整頓や進んでボランティア活動ができる子ども	掃除やボランティア活動への取組 毎朝、中庭や運動場の清掃等のボランティア活動に取り組んでいますが、主体性、積極性という点からするともう一がんばりといったところです。1,2年生が意欲的に取り組む姿が見られました。職員の取組の在り方についても意見交換しながら、改善を図っていきたいと考えます。	2.7	学校内を掃除することは、当たり前のことである。当たり前のことができるように、また、これまでの体験活動等が生かされるように、今後も指導をお願いしたい。	2.8

	目指す児童の姿	学校の自己評価コメント	自己 評定	学校関係者評価コメント	関係者 評 価
続き 豊かな心の育成	さまざまな集団に進んでかかわる子ども	<p>友だち、他の人とのかかわり</p> <p>本校は小規模学校であるため異学年交流の場面が数多くあり、本年度も、学年を越えて友達と仲良くかかわる姿が見られました。また、有明小学校など、他校との交流も実施しましたが、今後は、新しい串間中学校への入学を見据えて、いろいろな形の小学校間連携を工夫し、より多くの友達とかかわる場면을模索していきたいと考えます。</p>	3.4	<p>小規模校から多人数の中学校に進学すると、友人関係等において、いろいろとあるのではないかと思われる。</p> <p>知らない人にかかわることが苦手な児童が多いので、学校での取組やスポーツでの交流等の機会を増やしてほしい。</p>	3.7
基礎基本の定着と学力の向上	進んで学習に取り組み、根気強く課題に取り組む子ども	<p>市学力調査（CRT）平均得点率 全国比（全国を100として）</p> <p>国語：下学年110 上学年 91</p> <p>算数：下学年114 上学年107</p> <p>上記は、1月に実施した市学力調査の結果です。学年が上がるにつれて問題の難易度も上がりますが、上学年の国語の結果については、特に結果分析等を十分に行いながら、手立てを講じていきたいと考えます。また、ある学年においては算数でも同様の取組をする必要があるととらえています。</p> <p>国語・算数は、3年生以上は複式指導で授業を行っています。授業における指導方法の改善や家庭学習における課題の出し方、取り組ませ方、個別指導の時間の確保等が本校の学力向上に向けての課題であると考えます。</p>	2.5	<p>少人数学級であるがゆえの競争心の薄さという点もあるが、一人一人に向けての指導が十分に行えるよさを生かし、学力調査のそれぞれの結果や個人差に対応しながら、学力を上げる指導の努力をさらにお願いしたい。</p>	2.8
	友達の考えに反応し、自分の考えを表現できる子ども	<p>「進んで伝える」児童の育成</p> <p>本年度も「コミュニケーション能力の向上」をテーマとした校内研究を継続してきました。その成果として、あいさつの項目でも述べたように人前で積極的に自分の考えを伝えようとする児童が多く見られるようになりました。また、文章表現力の向上についても取り組み、児童の作文や俳句が各種コンクールでの入賞や新聞掲載を果たし、そのことが児童の自信や意欲につながっていると考えます。</p>	3.1	<p>少人数の学校生活のため、コミュニケーションに不安がある。知らない人の前でも考えを伝えられるような子どもに育てほしい。</p>	3.3

	目指す児童の姿	学校の自己評価コメント	自己 評定	学校関係者評価コメント	関係者 評 価
続き 学力の 向上	進んで本に親しむ子ども	年間読書冊数 低50・中60・高70冊 ～目標達成率100% 読書ビンゴ、読書マラソン等、図書担当の指導の工夫や市立図書館との連携により、すべての児童が年間読書冊数目標に到達することができました。 ただ「学校に関するアンケート」集計結果では「家庭での読書」の項目において、児童、保護者とも評価が低い状況が見られました。家庭でも読書に親しむ取組を工夫していく必要があると考えます。	3.2	指導の成果を大いに評価できる。	4.0
	ふるさと「金谷」に誇りをもち、積極的にかかわり、地域のことを学ぼうとする子ども	地域の素材や人材を生かした体験的な活動の学期2回以上の実施 各教科等の授業や学校行事等において、地域の方にご協力いただきながらの学習活動に数多く取り組んできました。また、「浜っ子応援隊」の活動においても、保護者の方のご協力で、児童はたくさんの「金谷のよさ」に触れることができました。	3.0	学校のホームページで取組を見ているが、素晴らしいと感じる。次年度も継続して、活動を展開してほしい。	3.7
地域に開かれた教育活動を推進し、情報発信する学校づくり	週1回以上の学校の教育活動の発信（通信・WEB・投稿等） 学校通信「金谷小便り」、各学級の学級通信等をとおして、児童や学校の様子を保護者や地域の方に知っていただくことに努めてきました。また「金谷小ホームページ」においても写真とともに週1回程度の更新を行いました。また、児童の作品を積極的に各種コンクールに出展し、多くの入賞者を出すことができました。	3.5	ホームページの更新は大変だと思うが、今後も積極的に発信してほしい。	4.0	

評価スケール 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する
○ 上記のスケールで自己評価を実施しました。

総評

- ・ 本年度の目標については、おおむね達成されていると思われる。次年度の課題として、学力の向上と地域の人へのあいさつの励行をお願いしたい。
- ・ 学校、地域、スポーツ少年団等で、子どもたちはたくましく成長している。今後も子どもたちのさらなる成長のために指導、手助けをお願いしたい。

総括

年度当初に設定した「学校経営の努力事項」に沿って、各学期に実施した児童、保護者、職員の自己評価等を参考に学校評価を行い、以上のような成果や課題を明らかにすることができた。これらをもとに、次年度も新たな目標、評価項目の設定を行うとともに、特に本校としては「学力向上」と「コミュニケーション能力の向上」、そして教育課程特例校としての指定を受けた「海洋教育への取組」を充実させていきたい。